

2013.4.26.

第1回ワーキンググループ

議事録執筆者：池田真子

補記：文化の家 山崎沙知

■日時：2013年4月26日(金)15:00～

■参加者：

〔ワーキンググループ〕

林剣士郎、堀田まゆみ、大島令子、片岡有紀子、中野圭、梅村真季、西野可奈子、
青山恵、橋寛憲、坂下恵子、加藤裕美、伊東江利子、梅村智子、島田善規、都築徳紀、
池田真子

〔文化の家のスタッフ〕

川上實館長、加藤登美子事務局長、靱山勝人、遠藤健一、生田創、佐藤雄亮(カメラ)、
山田美代子、山崎沙知

■川上館長のお話

文化の家は開館して15年。これを機会に軌道修正、パワーアップをしたい。

【課題】

- ・なかなか市民に馴染んでいかない。
- ・入館者年間約500,000人。自主事業では44,000人集めたので、自主事業に関しては市民の数で換算すると1年に1回は必ず来ている。この館内に入ったというだけで500,000人というカウントがあるので1人年10回くらいは来ているということになります。しかしこれは偏っている。ある一部の人が来館しているのではないか。

【目標】

- ① 最近の市の統計によると50%強はスポーツ・健康の方に興味がある。文化・芸術に興味をもっている人は31%程度。その割合をどうあげていくか。
- ② 自主事業。昨年は小さいイベントを含めると135本やった。事業係が全部手がけている。その事業の一部をこれからは市民の皆さんに考えて企画し実現してもらいたい。
- ③ 市長は「日本一の福祉のまち」という理想を掲げている。この理想に我々がどのような形で沿うことができるか。これを具体的な形で、丁寧に考えていきたい。芸術はもともと癒し等、福祉的な要素を持っている。より良い生き方をするためのパワーを秘めている。

■自己紹介（司会：靱山勝人）

■プロジェクト紹介（山田美代子）

■質問

・プロジェクト紹介の映像について。言葉は並んでいるが具体性がない。芸術をキーワードと考えて、この文化の家だと音楽、美術、芸術の3つの柱で成り立っている。それを福祉と絡ませないといけない。そのための市民参加だが、映像の言葉では文化の家を使用していない人に対して広めるためには。「なにが言いたいのか」という感じではないか。

・文化の家ほど多くの人を収容できる施設は長久手にはあまりない。具体的な例として、引きこもりの人にも来てもらうためには「60歳の入学式」をする。60歳という年齢という共通するテーマを設けて来てもらう。文化とは関係なく市民に集まってもらう。これからどうしようと考えている人に集まってもらう。他の名目で市民を呼び出す。

・舞台を使ったイベント（芸能発表会）

・長久手市は日本一の福祉のまち。それにいかに近づいていくか。

・守山区の小劇場では市民を集めて勉強会をやった。自分たちに何ができるか考えた。プロを招いて講習会を開き、映像や照明等の勉強をした。そして市民で劇団を作った。作曲家や演出家を中心となって毎年劇の発表をしている。

今までの文化の家は見せる場所、発表する場所というイメージ。今回のキーワードである「福祉」が入ってくると生活に関わってくる。演劇や音楽が嫌いな人に役割を与えて引き込んでいく。守山のイベントに参加している人はみんなボランティア。見る人も演じる人も世話する人も市民。市民が参加するための準備が必要。照明や音響等を市民が使えるようにきちっと育てていく。

役割をもたせる→社会参加につなげる

・文化の家はいつも綺麗すぎて、汚したらいけないというイメージ。鑑賞したり、練習だけをする場所と思ってしまう。壁を感じる。縛りをなくす運営を文化の家側からしていただくと良いのではないか。出店を出してほしい。ガレリアは臭いも何もない。ガレリアにお店を広げる。規制緩和をしないと市民が来にくいのではないか。

・去年初めてアトリエマーケットを開いた。飲食もかねてお店を出した。ここでしかできない手作りで質の高いものを提供していきたい。お金だけではない交流をしたい。

・「利用の縛りがある」の縛りとは？

以前は壁面に作品をぶらさげられなかった。9:00AMにならないと入れない。

2013.4.26.

- ・学生や地域の方がもっと交流できる企画をしたい。各大学には色々なサークルがあるので、大学サークルやボランティアサークルの発表ができる場をつくりたい。

- ・文化の家に来ていない年齢層を調査して、ふだん来ない人たちを呼び込む企画をしたい。

- ・市民祭りのような市民が集まれるチャンスをつくる。

食わず嫌いをなくす。

- ・例えば「人形劇」とテーマを決めて、人形劇に関わる幼稚園の先生、大学の先生、サークルなど全てのひとを集める。なにかキーワードを提供すると今まで小さな場所で発表していた人が大舞台で発表できるようになる。「あの人も人形劇に関わってるんだ」とか「あの人も人形劇が好きだったんだ」→「じゃあ今度一緒に発表会しよう」というような交流の場をつくる。個々の集まりを繋げるテーマを与える。テーマに対して皆が歩み寄るようにする。今、何が求められているのか。

- ・主催者側の思惑だけで企画していたが、これからは市民のことを考えて企画していかなくてもいけない。

- ・展示を見た後に他にすることがない。それが文化の家に長居しない理由なのではないか。息を抜けるスペース(カフェ等)をつくる。

展示室はあまり稼働していない時期が多いので、使われていない時期は気軽に貸し出したらいいのではないかな。

- ・文化の家にたくさんのものが展示されているが、あまり入れ替わりがないので変化が楽しめない。例えば歌舞伎は劇場のなかには見るものがたくさんある。

- ・稼働率が良いのに文化の家への集まりが悪いのはなぜか。

- ・稼働率を考えない方がいいのではないかな。

敷居の件でいうと、豊田のホールでは価格の敷居が低い。500円でオペラが聴ける。

長久手には芸術家がたくさんいるのに、長久手ではあまり活躍していない。市民財産を活用できる企画。役割を与えて養成していく。

憩いの場所(カフェ)をつくれば交流ができるのではないかな。

■次回の WS

2013年5月16日(木)19:00～予定